

(一般質問)

質問日	令和7年6月6日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	市民クラブ	議席番号	38	氏名	北野谷 富子
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 学校給食の充実について	<p>本市の学校給食に係る経費について、食材費は、学校給食法に基づき保護者が負担している。物価高騰に伴う食材価格高騰分については国庫支出金の活用により、保護者負担の抑制を図っているが、令和7年3月に公表された「令和6年度包括外部監査結果報告書」の意見にもあるとおり、エネルギー摂取量が学校給食摂取基準の基準値に届いていないことは大きな問題だと考える。</p> <p>現状と課題について、以下伺う。</p> <p>(1) 現況の食材費では、エネルギー量と栄養素の摂取基準値を満たせない献立となることは明白である。</p> <p>ア この状況に対する本市の見解を伺う。</p> <p>イ 物価高騰下にあっても、地域の魅力ある食材を使用した学校給食の提供は積極的に行うべきと考えるが、伺う。</p> <p>(2) 本市の米飯の提供方法には、自校炊飯、個人別委託米飯（アルミパック米飯）、クラス別委託米飯（クラス別配缶）の3つがあり、そのうち約8割の学校等がアルミパック米飯での提供となっている。しかしながら、アルミパック米飯は、他の2方法と比べて1食当たりの単価が高く、アルミパック米飯が提供されている学校は、年々エネルギー量と栄養素の摂取量が減少しているとの結果も出ている。</p> <p>学校給食の提供にかかる平等性の観点からも、アルミパック米飯より安価なクラス別配缶での提供に切り替えるべきと考えるが、見直す考えはないか伺う。</p>					吉積学校教育部長	
2 流域治水の推進について	<p>今後の治水対策事業は、気候変動の状況を踏まえ、河川の本川整備だけでなく流域のあらゆる関係者の協働による「流域治水」の推進が、より一層重要である。</p> <p>こうした中、本市では昨年3月に浜松市総合雨水対策計画を改訂したところであり、流域の関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」へ転換し、「水をながす」、「水をためる」、「川をしる」の3つの対策の柱を軸として、エリアごとにハード、ソフト対策を組み合わせることで浸水被害の軽減を図ることとしている。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 浜松市総合雨水対策計画について、昨年3月の改訂から1年が経過したが、計画に位置付けた事業の進捗状況について伺う。</p> <p>(2) 重点エリアの一つに位置付けられている、馬込川上流</p>					平井土木部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	域の五反田川・有隣川エリアにおける対策事業について伺う。	
<p>3 福祉の充実について</p> <p>(1) 補装具費支給事業について</p> <p>(2) 介護サービス確保における課題について</p>	<p>(1) 補装具費支給事業は、身体障害者等の失われた身体機能を補完、代替するものとして、日常生活において、又は就労、就学のために、身体に装着して使用する補装具に係る費用を支給するもので、障害者総合支援法に基づく全国共通の基準で実施されている。</p> <p>ただ、可否の判定は、各自治体により運用が異なるのが実状である。現在本市では、補装具費支給事業の申請をしても、承認されるまでに数カ月を要している。国の法律に則った対応、不正がないように再確認する丁寧な対応も承知しているが、目の前の市民に寄り添うための一日も早い対応を講ずるべきと考えるが、本市の運用の現状と、申請から判定及び決定を通知するまでの期間短縮を図るための改善策を講じる考えがあるか伺う。</p> <p>(2) 本市では高齢化が進む中、高齢者の健康を維持し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりが、ますます重要な政策課題となっている。近年では、介護が必要になっても施設ではなく、できる限り在宅での介護を希望される高齢者やご家族が増加していると認識している。</p> <p>その一方で、在宅介護を支える介護人材の確保は深刻な課題であり、とりわけ中山間地域や郊外など、訪問に時間や燃料費がかかる地域においては、介護サービス事業者の負担が大きくなっているとの声も聞かれる。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>ア 在宅介護を含め介護サービスに携わる人材の確保について、市としてどのような対策を講じているのか。</p> <p>イ 中山間地域における訪問介護等サービス事業者の燃料費や人件費など移動にかかるコストに対し、事業者を支援する具体的な方策は検討しているのか。</p>	小松健康福祉部長
<p>4 中心市街地活性化に向けた取り組みについて</p>	<p>本市では約10年ぶりに「中心市街地活性化基本計画」を策定することを決定し、今年度末までに国の認定を受けることを目指している。常葉大学浜松キャンパスや浜松調理菓子専門学校に移転計画をはじめ、スズキやハマキョウレックスの本社機能の一部移転、さらにはマンション建設による人口・世帯数の増加など、中心市街地には好材料がそろいつつあるが、こうした流れを追い風とし、活性化に向けた取り組みをさらに加速すべきと考え</p>	北嶋産業部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>る。</p> <p>そこで、「中心市街地活性化基本計画」策定の進捗状況について伺う。</p>	
<p>5 企業立地補助金について</p>	<p>中野市長が掲げる「まち・ひと・しごとの創生」の中でも、「しごとの創生」を最優先で取り組むべきものとしている。「しごとの創生」に向け、企業誘致は新たな雇用や、新たなサプライチェーン構築による地域経済の更なる活性化が見込めるなど、重要な施策であると考え</p> <p>る。</p> <p>昨年12月の静岡県議会において、企業を誘致する際の補助金について県外企業誘致につながるよう制度を見直していくとの知事答弁があった。</p> <p>静岡県の制度見直しに合わせた本市の対応について、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の企業立地補助金の実績と成果について伺う。</p> <p>(2) 静岡県の制度見直しを受け、本市の補助金の方向性を伺う。</p>	<p>北嶋産業部長</p>
<p>6 カスタマーハラスメント対策について</p>	<p>消費者からの過剰なクレームや威圧的な言動などのカスタマーハラスメント、いわゆる「カスハラ」から労働者を守るため、厚生労働省は「カスハラ」を定義したうえで、企業に対策を義務付ける方針を示した。本市も昨年7月に職員向けにアンケート調査を実施したと認識している。</p> <p>安心して働くことのできる体制をつくるため、職員に向けた「対応指針」を整備するなど、実効性のある対策を講じていくべきだと考えるが、本市のカスタマーハラスメントの現状と今後について伺う。</p>	<p>田中総務部長</p>
<p>7 林野火災対策について</p>	<p>今春、大船渡市（岩手県）、岡山市（岡山県）をはじめとした全国各地で大規模な林野火災が相次いで発生した。中には住宅地の近くまで火の手が及ぶ例もあり、改めて林野火災の危険性と、それに備える体制の強化が強く求められている。</p> <p>本市は天竜区をはじめとして広大な森林を有し、乾燥や強風などの条件が重なれば、同様の火災がいつ発生してもおかしくない状況だと考える。</p> <p>市民の命と財産を守るため、本市の林野火災対策と初動対応の体制について伺う。</p>	<p>那須田消防長</p>